

近くに住むって、素敵じゃないか 近居のススメ

帰省中の人にも読んでいただきたい、毎年恒例の移住・定住、Uターン促進企画。今回は、2年前に都内からUターンを果たした松久さん一家の『3世代近居』を取り上げます。

良好な子育て環境を求めて首都圏などからの移住を考えたとき、新幹線通勤と親との近居を組み合わせれば、転職することなく自然豊かな環境の中で、のびのびと子育てができる可能性があります。

勤務先の事情も含め、心地よさと感じるライフスタイルは人それぞれですが、『近居(※)』を選択肢の一つとして考えてみませんか。

※『近居』は、移住促進のほか、郊外団地で増えつつある空き家の利活用の促進など、市としてもさまざまなメリットがあることから、勧めていきたい暮らし方の一つです。

問合せ 建築住宅課

☎0833・2750

◆松久さん一家（大宮町2丁目）

左から晃士さん、綾子さん、保育園に通う由香里ちゃん。夫婦2人とも都内へ新幹線通勤
※昨年の広報みしま8月1日号でもご紹介しました。

◆神谷さん一家（綾子さんのご実家。富士見台）
右から修さん、香代子さん。修さんは小学校勤務。香代子さんは近所でパート勤務

※写真は、神谷さんの自宅で撮影



「松久家のある一日」



新幹線では、ゆったり座って通勤。それぞれ勉強をしたり、読書をしたり、自分だけの時間。



綾子さんは一足先に新幹線で都内の会社へ。晃士さんが、由香里ちゃんを保育園へ送ります。

interview



Ⅱ ① きっかけⅡ

ご夫婦そろって休日のテニスが趣味という神谷修さんと香代子さん。結婚し、修さんの両親と同居し始めたのが現在のお住まいで、35年ほど前のことだそうです。

現在は、夫婦2人の生活で、どちらもまだ現役でお仕事をされています。

「当時まだ都内に住んで、保育園が見つからなくて苦労していた娘夫婦。初孫の由香里が生まれてからしばらく、育児中の晃士さんも、みんな一緒にこの家で暮らしました」と話すのは、香代子さん。

「孫の世話をするのは毎日が刺激的で喜びを感じましたが、私自身の同居の経験からか、娘たちとの『同居』を考えたことは無かったです。また、三島での『近居』を勧めたこともありません」

晃士さんは、育児中に三島で実際に暮らし、移住後のイメージができたことで、『近居』を思い立ったそうです。

Ⅱ ② 『近居』してみても

娘夫婦の決断をどう受け止めたのか、また、実際に近居してみても感じたことを、修さんが話してくれました。

「決断を聞いた時、それほど驚かなかったのですが、単純にうれしい気持ちはありませんでした。驚かなかったのは、テレビで都内の保育園事情などを見聞きするうちに、そんな事もあり得るかとはなんとなく想像していたからです。

実際に近居してみても感じたのは、生活に張りが出るというか、刺激になっていくこと。簡単な例だと、週末に皆で集まって食事をするのが楽しい。これって、想像していた通り



の出来事なんだけど、想像以上にしんどい実感が湧いてくる」

Ⅱ ③ 『近居』のメリットⅡ

「デメリットって無いですよ。孫の成長をすぐ側で見られることと、困ったときにタイムリーな支援をしてあげられることが一番のメリット。1〜2週間に1回会うような、遠からず近からずの距離感もいいんですね。過干渉にならず、お互いが自然体で向き合える」

会社の同僚の苦労話を例に、近居のメリットを語ってくれたのは、綾子さん。

「夫が出張で夜不在のときに、よく娘と2人で実家に泊まりに来ます。親が近くにいない同僚は、1人でご飯を食べさせて、お風呂に入れて、寝かし付けて、次の日保育園に送ってから、仕事に行つて。その一部でも手伝ってもらえるだけで本当に楽で、恵まれてます」

「近居』してから楽しかった出来事を聞くと、晃士さんは、昨年三嶋大祭りでのエピソードを話してくれました。

「手筒花火をみんなで見たのは、とても楽しかったですね。しかも花火を奉納したので、棧敷席で。家族みんな、同じことを体験する楽しさを感じました」



お迎えは綾子さんの担当。会議などで急に遅くなったときには、母親の香代子さんにお願いすることも。



晃士さんが帰ったら、みんなでいただきまーす！